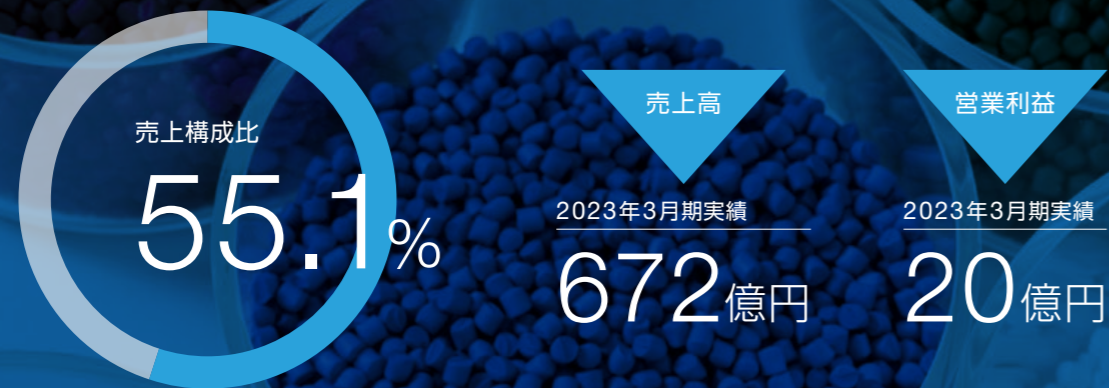


セグメント紹介・戦略・業績

Color & Functional Products

— 顔料及び顔料の2次加工製品 —



事業説明

当セグメントでは、顔料及び顔料の2次加工品を中心に、顔料・繊維用着色剤、プラスチック用着色剤、樹脂コンパウンド*1、顔料分散体、機能性材料の製造・販売を行っています。

顔料

塗料、印刷インキをはじめ情報表示・記録用など、幅広い用途で用いられる無機・有機顔料*2 及び加工顔料*3

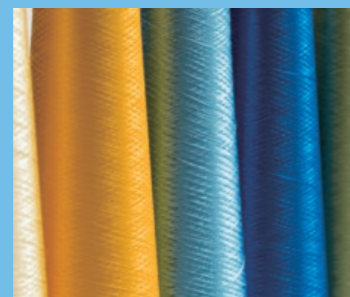
▶ 主な製品



顔料・加工顔料

化成品

合成繊維用原液着色剤、顔料捺染剤*4、製紙用着色剤、建材用着色剤など幅広い産業用途に対応した着色剤



繊維用着色剤・捺染剤

合成樹脂・着色剤

塩化ビニル樹脂、汎用樹脂、エンジニアリングプラスチックなど多様な樹脂に用いられる着色剤・機能性付与材料



プラスチック用着色剤・機能材
-マスターバッチ

プラスチック用着色剤・機能材
-コンパウンド

*1 樹脂コンパウンド：プラスチックに顔料や強化剤などの添加剤を練り込んだ成形材料です。

*2 無機・有機顔料：色の素である顔料には、金属などの無機物からなる無機顔料と、有機物からなる有機顔料があります。

セグメント戦略

2023年3月期の振り返り

情報・電子業界向けの顔料及び分散体の売上高は、オフィス事務機器用途は回復が続きましたが、ディスプレイ用途は、液晶パネルの在庫調整及び巣ごもり需要の減少により低調となりました。家電OA機器及び車両業界向けのコンパウンド・着色剤の売上高は、国内は半導体不足等による自動車生産低迷により低調となりましたが、海外は、東南アジア・インドが好調に推移しました。

リスクと機会

- リスク
 - ・ 海洋汚染防止や循環型社会への移行に伴うプラスチックの需要減少
 - ・ 原材料価格高騰、エネルギー及び輸送コストの上昇
- 機会
 - ・ バイオマスプラスチック、生分解性プラスチックや、リサイクル関連事業で生じる新たな需要の創出
 - ・ アジア圏などGDP高伸長国における需要拡大
 - ・ 電気自動車の普及
 - ・ 半導体市場の伸長

事業概要

顔料製品においては、カラーフィルタ用、IJインキ用、カラートナー用顔料など高品位製品の開発と同時に、技術部門の連携により要素技術を複合化し、顔料分散体やマスターバッチの開発に取り組んでいます。また、天然物由来の化粧品材料、電子部品の熱制御素材として高熱伝導性・放熱機能を付与した無機複合材料など、社会課題の解決に向けた環境配慮型製品の開発・改良に引き続き注力します。

顔料の2次加工品においては、多様化するニーズに対応して、ペレット状、液状及び粉状など用途に合わせて加工顔料の製品設計に積極的に取り組むと同時に、色彩のみならず機能性に着目した製品開発を進め、繊維用途や情報・電子用途などを含め、幅広い業界への拡販に取り組んでいます。また、高機能化するプラスチック材料や材料の複合化などに対応するため、テラーメイド製品や新たな加工技術の開発に取り組み、環境貢献やナノ材料、フッ素樹脂に代表されるスーパーエンジニアリングプラスチックなど新しい需要に対応した製品の開発を進めます。

取り組み

当セグメントでは、顔料合成技術を基に粒子形状や表面性質を高度に制御することで各種用途への高付加価値製品を提供するとともに、分散加工技術を活かした合成樹脂用着色剤、各種コンパウンド加工技術を国内外のさまざまな産業分野に展開しています。また、大日精化グループの技術を多角的に展開し、機能性材料の開発・

製品化にも取り組んでいます。こうした技術を背景に、お客様のニーズをきめ細かく的確に捉えて速やかに生産や販売へと展開する体制を整え、さまざまな産業分野に付加価値の高い製品を提案・提供できるのが大日精化グループの強みです。

業績

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期予想
売上高* (億円)	915	702	672	705 (+4.9%)
営業利益 (億円)	15	49	20	29 (+44.6%)

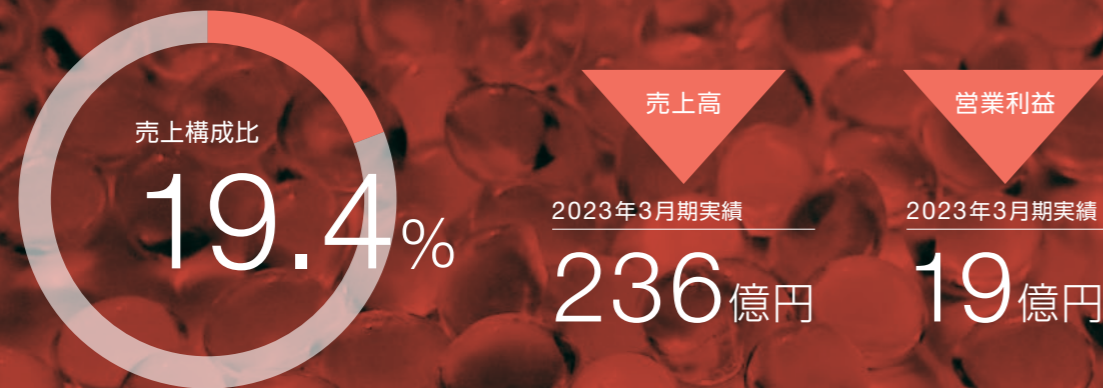
* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

*3 加工顔料：顔料は水や油に溶けにくい、または溶けにくいため、分散加工するには顔料の特徴を活かした分散技術が必要です。加工顔料は、この分散技術から生まれた製品です。

*4 原液着色剤と捺染剤：原液着色剤は、紡糸する前の樹脂に色をつける着色剤です。捺染剤は、布にプリントする際に使用する材料です。

Polymer & Coating Materials

— 合成樹脂及び特殊コーティング剤 —



事業説明

当セグメントでは、合成樹脂及び特殊コーティング剤を中心に、ウレタン樹脂、天然物由来高分子、紫外線・電子線硬化型コーティング剤*1の製造・販売を行っています。

ファインポリマー

合成皮革や成型品に使用されるウレタン樹脂及び着色剤、機能性を付与する特殊コーティング剤や接着剤、耐熱樹脂の代表であるイミド系樹脂

ケミカルバイオ

カニ殻やきのこ等を原料とするキトサン*2をはじめ、多様な海洋生物や天然物より有効成分を抽出した天然物由来高分子製品

コート材

情報・電子関連分野、自動車分野、内装建材分野などで用いられる紫外線・電子線硬化型コーティング剤及び意匠・機能性コーティング剤

▶ 主な製品



ウレタン樹脂



天然物由来高分子



コーティング剤

*1 紫外線・電子線硬化型コーティング剤：紫外線や電子線のエネルギーで化学反応を起こし、瞬時に液体から固体に変化するインキやコーティング剤です。

セグメント戦略

2023年3月期の振り返り

ウレタン樹脂の売上高は、主要販売先の在庫調整などによる車両業界向け、衣料品・服飾品業界向けなど全般的に低調に推移しました。情報・電子業界の液晶ディスプレイ向けのコーティング剤は、巣ごもり需要の減少等により低調に推移しました。

リスクと機会

- **リスク**
 - ・ 環境規制の強化や社会要請の高まり（脱プラスチック、リサイクル、無溶剤化・水性化、CO₂排出規制）
 - ・ 原材料価格高騰、エネルギー及び輸送コストの上昇
- **機会**
 - ・ 世界的な環境意識の高まりを受け、合成樹脂原料のバイオマス化や水性化・無溶剤化などESG貢献製品の需要拡大
 - ・ アジア圏などGDP高伸長国における需要拡大
 - ・ 電子機器の小型化、高機能化に伴う耐熱性樹脂の市場拡大
 - ・ モノマテリアル化の進行によるコーティング剤の需要拡大

事業概要

樹脂合成製品においては、ウレタン合成技術を軸に一連の展開を図り、合成皮革、透湿防水素材向けウレタン、車両内装用表面処理剤・着色剤、ウレタン接着剤、熱可塑性ポリウレタンエラストマー（TPU）、ウレタン・シリコン共重合樹脂、耐熱ポリウレタン接着剤などを提供しています。近年は、環境指向の高まりを背景としてESG貢献製品である無溶剤・水系ウレタン樹脂の開発に注力しています。また、新たな環境対応素材としてCO₂を原材料に使用したウレタン樹脂（HPU）の開発と市場への投入を進めています。

コーティング剤製品においては、配合技術を基に製造プロセスの省エネルギー化に寄与する紫外線・電子線硬化型コーティング剤をフラットパネルディスプレイやタッチパネルなどのIT・エレクトロニクス機能性材料分野、及び床材・建具などの内装建材分野に向けて開発・改良に取り組んでいます。

取り組み

主力のウレタン樹脂は、樹脂合成技術を軸に、開発・製品化に取り組んでいます。特に、地球環境への意識の高まりを背景に水性、バイオマスを中心としたESG貢献製品の展開、小型化と高機能化が進む電子機器に使用されるフレキシブル基板用高耐熱ポリウレタン接着剤の拡販に注力していきます。これらの製品を世界3拠点（日本、北米、中国）を核に、拡大する海外市場において事業を伸長させ、

成長につなげます。

コーティング剤は、蓄積された配合技術と分散加工技術を基に、国内外のさまざまな産業分野に提供しています。技術を活かしたオリジナル製品、カスタマイズ製品の開発も得意としており、技術とノウハウ、国内外の拠点展開により、お客様のニーズに合わせた独自性の高い製品を提案・提供していきます。

業績

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期予想
売上高* (億円)	197	236	236	250 (+5.7%)
営業利益 (億円)	26	33	19	27 (+36.6%)

*2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

*2 キトサン：カニやエビに代表される節足動物や甲殻類の殻皮などに含まれている天然物由来材料で、化学構造がセルロースに似た多糖類をアルカリ処理して得られる物質です。大日精化では、きのこから単離したアレルゲンフリーのキトサン製造も行っていきます。

Graphic & Printing Materials

— パッケージ用及び広告出版用インキ —



事業説明

当セグメントでは、パッケージ用及び広告出版用インキを中心に、各種用途に対応した幅広い種類のグラビアインキ、オフセットインキの開発、製造及び販売を行っています。

グラビアインキ

さまざまな部材への印刷が可能なグラビア印刷用インキ、コーティング剤、フレクソ印刷用インキ

オフセットインキ

新聞の折り込みチラシ、書籍、包装材などの紙媒体に使用するオフセット印刷用インキや特殊インキ

▶ 主な製品



グラビアインキ・フレクソインキ



オフセットインキ

セグメント戦略

2023年3月期の振り返り

包装業界向けのグラビアインキは、国内は飲料ラベル用途等が堅調に推移しました。海外は、インドネシア子会社でコロナ鎮静化により大幅に増収となりました。オフセットインキは、需要減少により低調に推移しました。

リスクと機会

- **リスク**
 - ・ 循環型社会への対応としての脱プラスチック、パッケージの簡素化やフードロス問題に対応したパッケージ、容器の物量減
 - ・ 原材料価格高騰、輸送コストの上昇
- **機会**
 - ・ バイオマスインキ、水性フレクソインキなどの環境配慮型製品の需要拡大
 - ・ 新興国の人口増加に伴うパッケージ需要の増加

事業概要

グラビアインキ製品においては、パッケージ分野のほか、建材用や産業資材用途にインキ、コーティング剤などを提供しています。環境負荷低減に寄与する製品として、VOC排出量削減につながる水性フレクソインキ、水性グラビアインキ、石化材料を植物由来材料に代替したバイオマスインキ、トルエンやMEKを使用しないインキ、循環型社会に貢献するためのアルカリ脱離インキなどを上市しているほか、CO₂を原料とするウレタン樹脂 (HPU) を利用した製品開発なども進めており、今後も低炭素化社会の実現に向けた取り組みに注力していきます。

オフセットインキ製品では、商業オフセットインキを主体に提供していますが、市場でニーズの高まっている抗菌・抗ウイルス機能を有するニスや意匠性に優れたメタリックインキなど、紙に対する印刷の特殊用途において、特徴のある製品ラインアップの拡充、開発に取り組んでいます。

取り組み

分散加工技術を基に優れた印刷適性を持つ特殊グラビアインキ・コーティング剤の開発・製品化に取り組んでいます。幅広い業界との協業で培ったネットワークと知見を基に、食品包装材、建材、産業資材など多様な用途で、

インキ、コーティング剤、接着剤などの一体提案が可能です。国内は成熟市場となってきたことから、塗加工技術を活かした、成長が見込める情報・電子、産業資材分野へ注力していきます。

業績

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	2023年3月期実績	2024年3月期予想
売上高* (億円)	269	280	310	325 (+4.6%)
営業利益 (億円)	6	△8	△13	△4 (-)

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しています。